



沢池小だより

令和3年度 10月号

(R3年(2021年)9.30)

[発行]明石市立沢池小学校

行水の すてどころなき むしのこゑ(上島鬼貫)

校長 福本 悟

朝夕、めっきり涼しくなってきました。虫の世界も「セミ」から「コオロギ」に主役が交代し、あちらこちらから、涼やかな声が聞こえるようになってきました。

沢池小学校の主役「子どもたち」にとってはどんな秋でしょうか。古来より言い慣わされてきた「〇〇の秋」ではない斬新な21世紀風の「秋」があるのかもしれないね。

“収束の秋”、コロナ禍にある今の私たちにとって、一番の願いかもしれません。100年前に全世界的に流行した「スペインかぜ」は収束に約3年を要しています。その間、恐怖からくるデマや流言飛語が出まわり、混乱に拍車をかけていたそうです。現代のネット社会の情報量は当時とは比べ物になりません。誰もがたくさんある情報に振り回されることなく、慎重に冷静に受け止め、判断し、行動することが求められています。

私たちはコロナ禍がもたらしている様々な生活上の変化が子どもたちに短期的、長期的にどう影響するか、注意深く見ていかなければなりません。学校は文部科学省「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～『学校の新しい生活様式』～」に基づいて感染予防対策を講じながら教育活動を行っています。マスク着用と換気、手洗いなどが中心です。感染予防対策には様々なご意見があり、それぞれにごもつとも、あちらを立てればこちらが立たずと悩ましいこともあります。全員一致は難しいです。

一番大事なことは“子どもたちの心身の健康、安全です。その中で様々な教育活動を行うにあたって、「何ができるか」、「どうできるか」を日々考えています。時には「やめる勇気」も必要かもしれません。私たちの悩みや模索は当分続きそうです。

通学路での様子から・・・

できるだけ毎朝、通学路に出て子どもたちと朝の挨拶をするように心がけています。「おはようございます。(私)」、「おはようございます！！」と返してくれる子、会釈だけ返してくれる子、全く反応のない子など様々です。中には「おはようございます」と言った後で、「今の誰？」と友達に聞いている子もあります。

考えてみたら、朝会や始業式、終業式などで私が子どもたちと話をするのはすべて「放送」です。(顔は見えません)授業中に巡回していても、授業中なので言葉を交わす機会は

少ないです。それに何といても、互いに「マスク」着用中です。私の顔が記憶に残る子は少ないと思います。だから子どもたちに見てみたら、自転車に乗って、マスクをつけたおじさんが突然「おはようございます」と挨拶をしてきても「えっ??？」なのも当然です。コミュニケーションに大切な表情や口の動きが隠されている今、子どもたちとあいさつするのも、これまでのようにはいかないのです、何らかの工夫が必要だと反省しています。

10月は色々と「変わる」月です…

10月はいろいろなことが変わります。身近なところでは「衣替え」。夏服から秋冬服へ切り替える頃です。テレビ番組が変わります。番組改編は春と秋の年2回です。木々の葉の色が変わります。少しずつ紅(黄)葉が進んでいきます。移動性高気圧の影響で秋は空模様が周期的な変化をします。などなど、変わることが多いです。

『一葉落ちて天下の秋を知る』

一枚の葉が落ちるのを見て秋の訪れを察することから、わずかな予兆から後の大きな動きを察知するという意味で使われます。

子どもたちの様子、コロナの感染状況、台風の動きなど、あらゆることにアンテナを高くして、わずかな変化の予兆を察知することで、機敏に対応できる準備を怠らずに、地道に取り組んでいきたいと思えます。

変わりゆく「沢池小学校」 その2



校舎の基礎工事が続いています。かなり深く掘りこんで巨大な杭の周りをコンクリートで固めています。プレハブではなく、本校舎が建設されるために、基礎は大変重要です。掘りこんで出た大量の土をダンプカーが運び出しています。近隣の皆様には騒音や振動、ほこりなどでご迷惑を

おかけします。

順調に進めば、来年(令和4年)6月末の竣工となり、新給食室からの給食提供は令和4年度2学期からの見込みです。

子どもたちをはじめ、保護者、地域の皆様にも長期間にわたって様々にご不便をおかけすることとなります。どうぞご理解賜りますようお願いいたします。